

# nifis 式勉強法のススメ！！

国家試験の勉強はどこから手をつけたらいいの？  
参考書はこれでだいじょうぶかな？

試験勉強は考えれば考えるほど不安になりますよね。

ここでは n i f i s が自信をもっておすすめする、  
効率的かつ効果的な勉強方法をご紹介します！



- ① まず過去問を読んでみてわかりそうなら解いてみる、全くわかりそうもなかったらすぐに解答と解説を読む。
- ② 各選択肢の誤っている部分を修正し、すべての選択肢を正しい文章にする。
- ③ 各選択肢（正しい文章）の内容が参考書のどこに載っているかを調べ、載っていればその部分にラインを引く。  
載っていなければ余白や付箋を使って追記する。
- ④ 上記 1～3 を最低過去 3 年分行う。
- ⑤ 繰り返し過去問を解き、わからない問題は参考書で確認する。

## なぜ過去問をベースに勉強するのか

本来なら各分野のテキストをじっくり読んでから試験勉強をはじめるのがよいかもしれませんが、しかし、通信教育部の学生の皆さんは仕事や子育て、介護など時間が限られている人が多いと思います。過去問に出てこない部分は覚えなくてもよいというわけではありませんが、限られた時間の中で効率的に勉強を進めるには重要なところから確実にすることが必要です。

## まずは分析！重要な部分とそうでない部分を知ろう

過去問を最低 3 年分解き、その解答や解説を参考書に追記することによって、ラインや書き込みが多い部分とそうでない部分がはっきりしてきます。これこそ、傾向分析！ラインや文字の色を出題年ごとに変えるとよりわかりやすくなるかもしれませんね。書き込みが多く何度も出題されてきた重要な部分から確実にものにしていきましょう。

## 世界にひとつの My 参考書をつくる

参考書は数多く出版されており、完璧なものはありません。しかし、Nifis 式勉強法を続けると近年の出題傾向を反映したあなただけの参考書ができます。過去問での分析や学習が終わったら国家試験当日までの残り時間を考慮したうえで模擬問題集や模擬試験なども使い、My 参考書をどんどん充実させていきましょう。

↓ 《My 参考書の例》



## My 参考書ができたら、あとはひたすら繰り返し過去問を解くべし！

参考書への書き込みは過去問の分析だけでなく、覚えた知識を整理するのにも効果的です。過去問は最低3年分、「ハイハイ、またこの問題ね～」となるまで繰り返し解きましょう。

## 大切なのは○か×かではない！解説を読みしっかり理解しましょう

過去問を解くときには正誤を覚えるのではなく「なぜ誤りなのか？」という点に注目しましょう。当然のことながら、全く同じ問題が出題されることはありませんので問題の正誤を覚えても役に立ちません。解説を読み、どの部分が誤りでどう修正すれば正しい文章となるかを意識しながら問題を解くことが大切です。そのためにも過去問集は解説が充実したものを購入することをおすすめします。

ヒトそれぞれ自分に合った勉強方法は違います。  
nifis 式勉強法も自分に合うようにアレンジして  
取り入れてみるのも良いでしょう。  
学習方法に関する相談もお待ちしています！

